

結（むすび）



# 設計における合理性とは？

**「合理性とは、多様な価値の均衡を、理性を通じて図ること」**

／ マルクス・ガブリエル(ドイツ哲学者)



**「設計とは、ある理念や哲学にのっとり、様々な要素を合理的に検討し形にしていく作業」**

検討要素：耐震・温熱・維持管理・長寿命・環境問題・空間体験・作業工程・コスト・社会性・収益性・使い勝手など

たった一つの要素のみにフォーカスすることは、偏りすぎて危険。（例：暖かい・地震に強い・意匠 だけでは足りない）

科学的な知識（定量性）だけに偏って、設計することも、合理的な設計とは言えず、片手落ちになる（情感性も必要）。

**住まいの設計は、複雑な世界の中で、出来るだけ多くの物事にフォーカスをしながら総合的に作り上げることが大切。**



『前庭奥庭の家』

「住まい」は、  
「性能」×「情緒性」×「生活のしやすさ」 の3つの要素から成り、  
そのすべてが高いレベルで実現出来た時のみ、高い質の暮らしが実現します。



## 『包曲の家』

この3つの要素には、それぞれが膨大な要素技術を含み、その一つ一つも複雑に絡み合って存在します。よって、どれかに偏り過ぎず、出来るだけ多くの物事にフォーカスをしながら総合的に作り上げることが大切です。



## 『大真屋の家』

価値観が多様になった現代では、「こうでなくてはいけない」と決めつけるのではなく、  
いろいろな価値を受容し、共感のなかで住まいづくりを進めていく必要があります。  
(絶対的に正しいことはなく、絶対的に間違っていることもありません。)



## 『高台の家』

古来より日本の美意識として、陰翳を階調（グラデーション）として捉え、狭小空間を「素材」+「陰翳」+「鈍く輝く光（金箔・漆）」で最大化する美学が存在しました。この美学と伝統技術を、現代社会に受け入れられる形として再構築することで、新たな建築的風景が生まれると確信しています。

その中で今回のテーマである「窓」の解釈と設計の実践が、一つの糸口になると考えます。



『朝月の家』 植栽ワークショップ

私たち工務店は、日本の風土に根ざした風景をつくること出来る数少ない担い手です。

「素材」が持つ物語を大切に、

「色」と「形」に必然性を持たせた、シンプルで「長く愛される家」を提供することができます。

不確定な時代だからこそ、理念と哲学をもって、社会での役割を果たし「価値創造の実践」を継続し、小さくもキラリと光る「スモールエクセレント工務店」を目指していきたいと思います。

ご静聴をありがとうございました。

小さなエネルギーで快適に暮らす。 地球に暮らす、地球と暮らす。

リ ヴ ァ ア ー ス  
livearth®



# 設計

普段の設計で意識すること。

「黄昏時の湖」

# 景色について

【やらない宣言】

風景の良くない所に  
窓はつukらない



「前庭奥庭の家」

# 景色について

風景の良くない場合は  
自分のところで作る



「前庭奥庭の家」

# 景色について

窓から見える風景は、  
少し遠くが見える程度よりも  
心動かす風景としたい。

